

子どもに踊りを伝え
「心の島興し」に努めていく

保存会前会長 町田 進さん(64)

「太鼓の音が聞こえるとじっとしておれん」と話すお年寄りがいるほど、夏目踊りは地元に浸透しています。夏目踊りでは歌がとても重要なのですが、「難しく覚えられない」という若者が増えています。保存会では小さいうちから島の文化に触れさせることが大事と考え、小・中学校で子どもたちに夏目踊りを伝える活動を行っています。島への愛着や誇りを持たせる「心の島興し」をこれからも続けていきます。



徳之島町／井之川集落

井之川

夏目踊り

集落全ての家を訪ねながら
一晩中踊り明かす

「井之川夏目踊り」は徳之島町井之川集落に伝わる郷土芸能です。夏目踊りは「浜下り」という祭事の中に組み込まれており、先祖に対し稲作の収穫を感謝し、一族の繁栄を願う意味が込められています。人々が歌い踊りながら集落の家を一軒一軒訪ねるさまは、五穀豊穡や子孫繁栄をもたらす「来訪神」が家々を訪ね歩き、祝福を与える様子を表しているといえます。かつては旧盆(旧暦7月15日)の後の土日に踊られていましたが、今では8月15日の後の土日に踊られるようになりました。

お盆を終えた最初の土曜日の夜10時ごろ、まず浜で太鼓が鳴り響きます。それを合図に集落の老若男女が浜に集まり始め、そこで1時間ほど踊り、気分を盛り上げた後、集落の家々へと繰り出します。宝島、伊宝、佐渡という3つの小字ごとに3グループを作り、1グループが80戸ほどの家を歌い踊りながら訪ねて回ります。

「井之川夏目踊りは歌が基本。歌があつ

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな祭が各地に残っています。今回はそんな祭の中から徳之島町に伝わる「井之川夏目踊り」をご紹介します。

「井之川夏目踊り」は「徳之島町井之川集落に伝わる郷土芸能です。夏目踊りは「浜下り」という祭事の中に組み込まれており、先祖に対し稲作の収穫を感謝し、一族の繁栄を願う意味が込められています。人々が歌い踊りながら集落の家を一軒一軒訪ねるさまは、五穀豊穡や子孫繁栄をもたらす「来訪神」が家々を訪ね歩き、祝福を与える様子を表しているといえます。かつては旧盆(旧暦7月15日)の後の土日に踊られていましたが、今では8月15日の後の土日に踊られるようになりました。お盆を終えた最初の土曜日の夜10時ごろ、まず浜で太鼓が鳴り響きます。それを合図に集落の老若男女が浜に集まり始め、そこで1時間ほど踊り、気分を盛り上げた後、集落の家々へと繰り出します。宝島、伊宝、佐渡という3つの小字ごとに3グループを作り、1グループが80戸ほどの家を歌い踊りながら訪ねて回ります。」と語るのは、保存会前会長の町田進さん。男女の歌の掛け合い(歌掛け)に合わせ、男性の集団を女性が取り囲み、踊ります。歌と踊りが速度を増すほど踊りの輪は中へ中へと縮まり、踊りが歌と太鼓についていけなくなった時、太鼓が乱打されて踊りが終わります。これを繰り返して翌朝の10時ごろまで夏目踊りは続くのです。「夏目踊りがあるからこそ井之川の人々の連帯は強い。祭が絶えると集落も活気がなくなるので頑張っていていきたい」と町田さん。先祖代々受け継がれてきた夏目踊りは、地域の絆を強くするものでもありました。



徳之島町

徳之島町は昭和33年、亀津町と東天城村が合併して発足した、総人口11,855人(平成24年5月1日現在)のまちです。鹿児島の南南西468km、徳之島の東側、奄美群島のほぼ中央に位置しています。美しい海と深い森があり、貴重な動植物が息しています。写真は町の北東部にある「駐プリンスビーチ」。1.5kmに渡る白い砂浜と青く澄んだ海が印象的です。